

令和 6 年度砥部町総合教育会議 -議事録-

- 1 日 時： 令和7年3月11日（火）午前10時00分～午前11時00分
- 2 場 所： 砥部町中央公民館 2階 会議室1
- 3 出 席 者： 砥部町長 古谷 崇洋
砥部町教育委員会教育長 大江 章吾
砥部町教育委員会教育長職務代理 篠原 弘康
砥部町教育委員 壽野 章子
砥部町教育委員 佐川 恵子
砥部町教育委員 松永 泰
- 4 事 務 局： 学校教育課長 伊達 定真
社会教育課長 山本 勝彦
子育て支援課長 堀 潤一郎
学校教育課長補佐 木下 直之
- 5 傍 聴 人： 無し
- 6 提出議題： （1）本町における教育振興について
（2）松山南高等学校砥部分校との連携について

7 審議の状況（要旨）

発言者	内容
事務局	定刻が参りましたので、只今より令和6年度砥部町総合教育会議を開催します。
町長	開会にあたりまして、古谷町長がご挨拶を申し上げます。
事務局	(あいさつ)
議長(町長)	砥部町総合教育会議設置要綱第4条の規定により、会議の議長は町長が務めることとされていますので、これからの進行は、古谷町長にお願いします。
議長(町長)	それでは、議長を務めさせていただきます。
議長(町長)	まず初めに、「教育振興について」を議題とします。
議長(町長)	資料のとおり、10年前と比較して町内全ての小中学校で児童生徒数が減少している。人口減少社会における教育をどうするか、意見を伺いたい。
教育委員	まず、現状の課題を把握しておく必要がある。今、不登校の問題がある。
議長(町長)	宮内小学校以外にはサポートルームが整備されているが、不登校の学びの保障についてもまだ不十分と感じている。
議長(町長)	保護者の気持ちと行政のミスマッチがあると思う。国は、学校以外のフリースクールなど多様な学びを認めている。学校に行ってほしい親もいれば、行か

教育委員

なくてもいいという親もいる。不登校の原因は個々に異なる。学校のサポートをしっかりとしながら、フリースクールも増やしていきたい。

議長（町長）

当事者の話を聞くことが大事。学校や教育委員会に相談と言われても、そのハードルが高い。そこに相談するときには、深刻な状態になっているということ。

教育長

その声を聞く仕組みを確認する必要がある。

教育委員

気軽に相談しやすい環境が必要ということ。

町に専門家がいなくて感じている。専門職員の方の力を借りることで少し変わるのではないかなと思う。

教育委員

スクールソーシャルワーカーの募集を見た。資格が無くても良いことになっていたが、有資格者を雇うべきだ。

議長（町長）

専門職は必要。どう雇用するか、スキルの調査からはじめて、報酬単価の検討も必要。

教育長

スクールソーシャルワーカーについて、資格がなく、かつ経験のない人は雇用しない。

教育委員

スクールソーシャルワーカーは、知識・技術がアップデートされた研修を受けているか。新しいことにもアンテナを張り、保護者とも情報を交わせる人が良い。

事務局

スクールソーシャルワーカーは年1回県の研修を受けている。

教育委員

現場の対応として専門家がいることは良いこと。学校の先生は生徒とコミュニケーションをとるためにいろいろ知っておかないといけない。そのためには、研修を積極的に受けてほしい。

議長（町長）

次に、広田小学校と山村留学センターについて、ご意見を伺いたい。

教育長

今年度、地元の子が3人。これをどうみるか。平成27年度と比較して約85%減少している。広田小学校児童のうち地元の子3人、留学センターの子20人という非常にバランスが悪い。

教育委員

山村留学センターができて30年以上が経つ。高市小学校存続のために始めたものが今も続いている。財政負担が大きいのは理解しているが、廃止というのはどうかと思う。

教育長

町外の子を砥部町が教育するということへの違和感は否めない。

教育委員

広田小統合の時には、保護者も留学センターの存続を希望した。保護者と子供ファーストであるべき。

教育長

広田地域で生活しながら砥部地域の幼稚園又は保育所に通っている子が何人いるか。

事務局

令和6年度1人、7年度も1人。

議長（町長）

山村留学センターは、教育以外にもいろいろな思いがある施設。地元の3人の家庭、これから広田小に入る予定の家庭の意見を聞くことがスタートだと思う。これは先送りできない難しい問題。いつまでに方向性を決めるかという議論を始めないといけない。

教育委員	広田地域から砥部中に通っている生徒がいるので、小学生が砥部小に通うことになっても地域にあまり影響はないと思う。広田小を無くすことと、山村留学センターを無くすことは別で考えることもできる。
議長（町長）	広田地域についてのビジョンがないところは反省点。 次に、松山南高等学校砥部分校との連携について、砥部分校に対してはこれからも支援やサポートを拡充していく。80名の定員を毎年満たすためには、砥部の子に通ってもらうことが不可欠。そのためにどうしたらいいか意見を伺いたい。
教育委員	美術に興味がある子どもが少ないのではないか。分校を残すのであれば中学校との連携は必要。分校から一般の大学への進学者が増えれば砥部町の子どもの入学希望者が増えるのではないか。
教育委員	全国募集も実施した。これから実績を出すことが大事になってくる。高校がPRすることは必要だが、保護者や子供が発信することも効果的。進学実績を作るのであれば、寮に塾を開設してもよいと思う。
教育長	大学に繋がるようにという前に、交流を通して中学生が将来夢をかなえ、掴んでいくような切り口でいいのではないか。
議長（町長）	地域が分校のことをあまり知らないのではないか。私も砥部に生まれ育ったものの、分校との接点がなかった。 部活動の地域移行は、接点を作る機会になるのではないかと思う。
教育委員	アートであったり砥部焼であったり、もっと分校と一緒にできることはあると思う。
議長（町長）	今後、担当課とも会話をさせていただきながら、町内の関係機関と連携を図り、本日議論した内容を形にしていきたい。それが砥部を良くする原動力になると思う。
事務局	それでは以上で令和6年度砥部町総合教育会議を終了いたします。